

#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.837)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



新シリーズ「ジェネラリスト BOOKS」誕生!



内科・救急・小児・在宅医療などの日常診療に直結した、プラクティカルなテーマが満載の書籍新シリーズ《ジェネラリスト BOOKS》が誕生しました! 目印は「リス」のイラスト(ジェネラ「リス」ト)です。

各領域の第一線で活躍する編著者による具体的な解説で、読めば患者の多様な訴え・症状に自信をもって対応できるようになる! 気軽に読めて実践的、短時間で要点を理解できます。その第1弾として、『身体診察 免許皆伝—目的別フィジカルの取り方 伝授します』(p.722)と以下の2冊を併せて、3冊同時刊行しました。



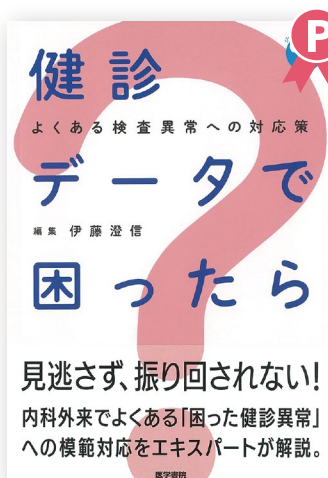
保護者が納得!

小児科外来 匠の伝え方

崎山 弘、長谷川行洋=編

本体 3,800 円 + 税 / A5・228 頁 / 医学書院 / 2017

「抗菌薬をください!」「頭をぶつけたから CT 撮って!」「予防接種って本当に必要?」「熱が下がれば登校できる?」「なかなか身長が伸びません」etc. 小児科外来では、保護者から多様な疑問や訴えが寄せられます。保護者とのやり取りに難渋する前に、ベテラン小児科医の外来をのぞいてみてください。保護者が納得する説明の仕方、教えます!

健診データで困ったら
よくある検査異常への対応策

伊藤澄信=編

本体 3,600 円 + 税 / A5・192 頁 / 医学書院 / 2017

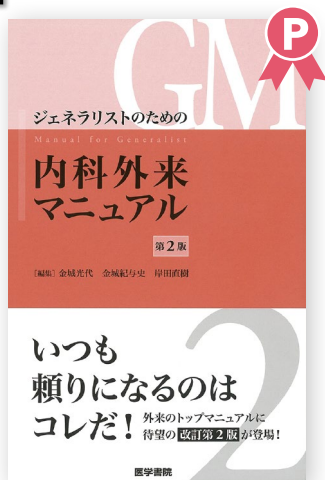
好評のうちに完売した本誌特集「健診データで困ったら」(2012年5月号、2015年8月号)がアップデートして書籍化され、《ジェネラリスト BOOKS》に仲間入りしました。編者は、小誌の編集顧問、伊藤澄信先生(国立病院機構本部 総合研究センター長)。

健診の検査項目がますます多様化する今日、異常値の出た健診結果をもってやってくる患者への対応にとまどう一般医は少なくありません。とりわけ、無症状で、検査値(あるいは所見)に軽度の異常というケースは、どの程度の間隔で再検するのかは迷うところ。本書では、外来で一般医が困る健診データ異常のパターンを集め、基本対応とそのエビデンスを示しました。



#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.837)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第2版

金城光代、金城紀与史、岸田直樹＝編

本体 5,400 円＋税/A5 変・736 頁/医学書院/2017

ナンバーワン・マニュアルとして不動の地位を得た『ジェネラリストのための内科外来マニュアル』(通称: ジェネマニユ)に、内容を大幅にパワーアップした第2版が登場! 診療情報のアップデートに加え、対応する主訴・検査異常の数を大幅に増やし、より幅広い臨床プロブレムに対応できるよう使い勝手を向上。トップジェネラリストならではの外来マネジメントのエッセンスも盛り込まれた、外来で「最も頼りになる1冊」。



多職種連携で支える 災害医療 身につけるべき知識・スキル・対応力

小井土雄一、石井美恵子＝編著

本体 2,700 円＋税/208 頁/医学書院/2017

「3.11」から6年、大災害を乗り越えた今、私たち医療職に必要なのは、経験を共有し、次へのステップに活かすこと。「3.11」の貴重な実例を検証し、日常におけるコーディネート体制の整備から、災害時の各職種の動きまでを考える。地震・津波にとどまらず、すべての災害への戦略の構築のため、被災傷病者個々から周辺地域までを視野に入れた「面」と、長期間の支援における「時間」の両面から、多職種連携の生む力を解説する。



医療福祉総合ガイドブック 2017 年度版

NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会＝編

本体 3,300 円＋税/A4・312 頁/医学書院/2017

医療福祉サービスを利用者の生活場面に沿って解説したガイドブックの2017年度版。最新情報のフォローも、見直しの工夫で容易に! 医療保険、生活保護、年金保険、介護保険、障害者総合支援法、子どものいる家庭への支援、自然災害に対応する支援等、全国共通で利用頻度の高い制度から、地域により異なるサービスまでを網羅。利用者からの相談に素早く、より確実に対応したい、医療福祉関係者必携の1冊。